



スイスの「頑固者」たちが暮らす町

鈴木 七美 (すずき ななみ)

本館先端人類科学研究部

立してザンクト・ガレンの病院を辞め、自宅で助産を続けてきた経緯を話してくれた。オツティリアの助産の基本は、産婦が十分な体力をつけるよう一緒に野菜畑の世話をし暮らすことや、産後の母親や子どもを頻りに訪ねることである。助産師の勉強をしながらオツティリアの元へ見習いに通っている若いタヤとわたしは、まずオツティリアの料理を学ぶことになった。キャロット・ジュース、青ネギを散らしたオートムギとポテトのスープ、無漂白白スパゲティとトマトソース、ナシのコンポートは、どれも柔らかい甘い味がする。塩分は素材に十分含まれていると主張するオツティリアは塩を加えない。

ながら自分で病や傷を治せるようになることが子ども時代の重要課題だったから、今もハーブを育て使うのが当たり前のだと話した。

出産は助産師に

一九九九年には、オツティリアに二人の子どもをとりあげてもらったというグラップスのマルを訪ねた。運転を引き受けてくれたアッペンツェルに住むマルの妹の三〇代のルースは、病院で出産したが、その場合にもとりあげたのは助産師だと説明してくれた。ルースは、オツティリアの助産をめぐらすがっているわたしを訝しく思っていたようだ。パト・ラガツツに住む日本から来たヨウコさんにも聞いたが、彼女の場合も同じだという。後に助産師が活躍してきたというオランダを訪ねたわたしはこの地でも同様のシステムであることを確認し、長年、アメリカにおける出産の近代化とその影響が深かった第二次世界大戦後の日本の実践を常識のように思っていたことを改めて実感したのである。

一〇〇パーセント働かず豊かに

マルの家に到着すると昼時で、帰宅した夫や息子とスパゲッティの昼食をと

「産婆さん」や「薬草療法」

九月のフォークフェスティバルでつたがえすお菓子で作ったような町を歩きまわり、初日から新品のスニーカーが牛の糞まみれになってしまったのは辛かったが、「産婆さん」や「薬草療法」の情報をえることができた。父親の代から薬局を営む薬師ヴィルト氏は、身体の自然の力に注目し体質改善を目的とするホメオパシー薬とともに、この地方の薬草から作った人気の胃腸薬を見せてくれた。「頑固な産婆」として知られる助産師オツティリアは、助産方法に関し産科医と対

ザンクト・ガレンで特急電車から赤い登山電車に乗り換えると、「ヨウ、ヨウ」というスイスドイツ語の相槌が牧草地を登る明るい車内から賑やかに聞こえてくる。一九九七年からはほぼ毎年、スイスの「頑固者」たちが住むといわれる町アッペンツェルにわたしはやってくる。「一九世紀アメリカの民衆健康運動を構成するハーブや水を使った治療文化を追ってきたわたしにとって、現代西洋医療以外の民俗療法や伝統医療などオランダタイプ・メディスンの宝庫といわれるこの地域は、ずっと訪ねてみたかったところだ。

一セントという具合である。家に帰って昼食を摂ることや、一〇〇パーセント働かなくても豊かに暮らせることが皆の関心事だ。事業所のリーダーの采配に任されているというワークシェアリングの実践はゆったりとしたこの地域のみかと思っていたわたしは、後に新生殖補助技術の調査で訪れたザンクト・ガレン州立病院やチューリヒ大学病院の医師たちも、毎年開口一番に今年の自分の働き

方や、管理職として勤務時間を調整する難しさなどを語るの、驚いたものだ。首都ベルンの大学とアメリカで法律を学んだルースとミシエルが、ルースの故郷アッペンツェルの生活をライフスタイルにあっているから選んだということばを、現代社会の暮らしを考えると、いつもわたしは思い出す。

子縁組に関する調査など、テーマは変化しても、わたしは毎年北東部スイスを一巡りして皆の顔を見てから調査に出かける。毎年会ったり一緒に暮らしたりする人びととともに年をとりつつ、その人たちにとって当り前なことや関心事を感じとり、自分の感覚に刺激を与えることがわたしにとっていちばん重要な調査だが、時間がたつぱり必要で、終わることもないのだ。

もにした。いちばんの話題は、皆が今年どのくらいの割合で働くことにしているかであった。マルは子どもたちが小さいので一〇パーセントでマッサージュ師の仕事をしている。少年の保護観察司の夫ピーターは、昼間息子とともに果樹園の世話をしたので七〇パーセント。ルースは二人の子どもが小さいので英語教師の仕事を一〇パーセント、準司祭の夫ミシエルは勉強もしたので八〇パ



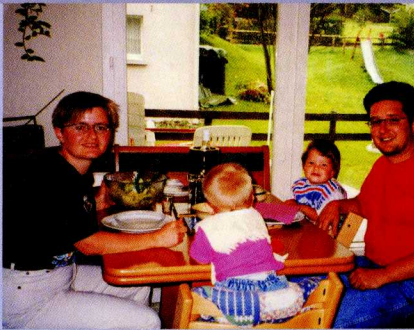
色とりどりの模様や絵が描かれているアベンツェルの家や教会



妊産婦から相談の電話を受けるオツティリアと、毎日訪ねてくる隣人のモニカ



オツティリアの家の分娩室と器具。窓辺には新生児の心臓音を聞く器具が置かれている



ルース一家の昼食。たいがいスパゲッティとサラダを夫婦二人で作る



バラケルスス・クリニックの薬局にはハーブティー("Kräuter-tee")とともに"BANCHA"が並び、滋養ある食物として"Miso"もおかれている